

## 編集後記

『史観』第一五〇冊をお届けします。本冊には日本史二本、東洋史一本、西洋史一本、考古学二本の論文・報告が寄せられました。また、本冊から史学会大会報告を彙報から独立させた形で掲載致しました。平成一五年度史学会大会では「交錯する日米の日本研究」と題してシンポジウムを開催致しました。アメリカ人研究者による日本史研究を事例として、歴史学研究における「自己」と「他者」の問題を考えさせる機会を持つことができました。

『史観』も本冊で一五〇冊という記念すべきものとなりました。昭和六年十一月に創刊されてから途中、戦争の影響による約五年の中断がありました。七十三年間、継続刊行して来れたのは多くの先輩方の努力のお陰であります。歴史学研究は、過去において非常に厳しい状況の下で行なわれていた時代を経験してきました。現在の状況は、そうした過去の先達の時代に比較すると極めて恵まれているように見えます。しかしながら、常に楽観視することなく、現状をしっかりと見すえて研究していかなばならないと思っております。

卒業生を送り出し、新入生を迎え入れる桜花の季節にあたり、『史観』第一五〇冊の刊行を祝うとともに、今後も伝統を継承しながら、皆様のご支援の下で、新しい『史観』を刊行していきたいと決意を新たにしております。

末尾になりましたが、本冊の編集を担当された考古学専修助手の小高敬寛さんに感謝します。

(近藤二郎)

### 執筆者紹介（掲載順）

川尻 秋生	本学文学部専任講師
藤野 裕子	本学大学院博士後期課程
内藤 みどり	本学文学部非常勤講師
中澤 達哉	本学文学部助手
菊池 徹夫	本学文学部教授
高橋 龍三郎	本学文学部教授
熊林 佑允	本学大学院修士課程
後藤 健	本学大学院 COE客員研究助手

平成十六年三月二十日印刷  
平成十六年三月二十五日発行

### 史観

第百五十冊  
定価 一千円

編集者 福井 重雅

印刷所 株式会社 白峰社  
発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一  
電話東京(三三〇三)四一四二番  
振替〇〇一九〇―八一―四六二九